



第64号
平成18年(2006)
7月19日発行
(年4回発行)

連句と式目

青木秀樹

サッカーワールドカップ本大会の開幕を控え、日本中で関心が高まっている。国技大相撲、国民のスポーツ野球にくらべてマイナーな存在だったサッカーの人氣が上昇し、いまや小学生では人気ナンバーワンのスポーツになっているそうだ。この号が出る頃にはすでに大会が終了し、「やっぱり」とか「まだまだ」という反省の聲が聞こえていそうだが、本大会に出るからには一次リーグを突破する程度にはがんばってほしい。

連句協会が磯会長の発案で、協会本来の目的である連句の普及・発展のための活動を開始しようとしている。会長からは特に若い人への連句の啓蒙活動に重点を置きたいとの考えが提示されている。先日理事会において第一回目の論議が行われ、連句普及の阻害要因や解決のための施策などさまざまな考えが諸氏から出された。学校で連句を教えるように

働きかける施策も出されており、連句百年の大計としては正論であろう。しかし、当面の連句の施策としては迂遠な感じが否めない。いま、社会・経済面から団塊の世代が大量に定年を迎える2007年問題が話題となっている。生きがいや生き様に関連して、連句適齢期の彼らを生涯学習の一環として取り込むことが急務ではなからうか。

協会理事会の発言の中で「歴史的仮名遣いを知らない人は連句になじめない」とか「式目が難しいので、もっと簡素化するべきだ」という意見があったが、まったく的外れも甚だしい。面白ければ難しいマジシャンでもゴルフでものめり込むものである。歴史的仮名遣いがネックになるのなら俳句はとくに廃れていることになる。また式目悪者論は「式目」に罪があるのではなく「教え方」に罪があることを分かっていない論である。

「式目」は連句一巻をスムーズに巻くための基本ルールと変化のあるよい作品をつくるためのノウハウで構成されている。あれはいけない、これはダメという禁止事項集ではない。式目を知れば楽しくある程度の作品ができますというガイドブックである。

入門当初は「付け」、「転じ」と「戻らない」ことだけを知ればよい。初級者は「発想の多様化」、「より詩情のある句づくり」に努力し、そろそろ捌きの練習をしようかという中級者が「一巻の構成(序破急)」と「展

開のメリハリ」を身に着ければよい。連句は式目から入るものではなく、実作の場で少しずつ訳を話しながら教えればあまり抵抗感なく式目を覚えられるはずである。連句は指導者の良し悪しで好きにもなり嫌いにもなるものである。

国民文化祭の連句作品の選をしていて毎回感じることは、「式目」が身についていない応募者が多いことである。会派によって異なるような細かいことではなく、発句と脇の関係、第三の転じ、表六句のありようが分かっている、恋句が観念的で平凡、観音開きや三句がらみを平気でする、付かない句が並んでいる。こんな作品を七百巻もみることには正直疲れる。式目無用論をいう人に限って、式目を知らないか、本当の意味で式目を理解していないのではないかと思われる。

連句暦五十年になる抱虚庵土屋実郎氏が、あるところに「初心の頃にくらべて、このところ自分の捌きや作品が少し荒れてきているのではないか」と反省の弁を書いておられる。誰にも自分はこれだよいかと省みる謙虚さが必要であり、他者を思いやるやさしさが必要である。さほどキャリアのない者が天狗になつて、後進に自己流の解釈で教条的に式目を強制したり、自分の美意識を押し付けるようなことはあってはならないことである。猫蓑会の会員諸氏には、後進に連句の楽しさを教える良い先輩になってほしいと思う。

前句と付句との距離が近いのを親句、遠く離れているのを疎句と呼び、従来、連句では物付・心付を親句、それに対して芭蕉の考案した余情付（句付）を疎句と考えるのが普通である。

そして、「疎句に秀句多し」と既に十三世紀の藤原定家が喝破している通り、二つの句を付け合わせて、別の新しいものを作るためには、その前句と付句との間に広い空間か、或いは遠い距離があつて、そこに読者の想像が自由に入り得る余地が必要なのである。これは日本画における余白の持つ意味と役目とに似たものである。それ故、物付・心付を主とした貞門・談林の俳諧にすぐれた作品が見当らず、余情付（句付）を用いた蕉門の作品によつて、はじめて今日の鑑賞に堪える名作が生まれたと言つてよいであろう。

現代連句は大体、芭蕉の作品をお手本として来たから、付け方も支考の七名八体説の手法を踏襲して来た。しかしながら、近頃はこの物付・心付・余情付（句付）の手法に安住せず、もつと別の新しい手法を考え、これを実作に応用する人たちが現れるようになった。昭和四十五・六年ごろ、信大連句会の故高橋玄一郎氏、都心連句会の故野村牛耳氏そして、

その弟子にあたる村野夏生氏（わだとしお）、山地春眠子氏らによる運動がそれである。高橋氏は連句一卷を非連続の連続と考え、打越にとらわれず、前句と異なるものを付けて行く方法を編み出し、これに矛盾付と言う名称を付けられた。

- ① a 肉を挽く肉屋よ月のムンク展 静生
b 独房にきく蟋蟀の雨 玄一郎
- ② a 砂をはく浅蜷の息の勞れぬし 芙紗
b 片足跳びをちんがらといふ きよみ

①のbはaに対し、②のbはaに対してほとんど何の関係もなく並んでいるけれども、その並んでいる事だけで一種のおもしろさを感じるのは事実であり、前句と付句との距離・間隔を最大にとればこうなる他はないかも知れない。

このような手法は近代詩あたりから輸入されたものであるが、蕉風俳諧の中にも、これに似た手法が全然無かつたわけではない。七名八体の員外とされている空撓そらだめがそれではないかと言われている。

空撓とは無心に前句を吟じ返すうち、前句とは何の付け筋もなく、ふと思ひ浮かんだ姿をもつて付ける方法である。

- ③ a 障子に影の夕日ちらつく

b 髯殿はどれぞと老の目を拭ひ

支考は右の付号を空撓の証句としているが、これを敷衍された山地春眠子氏の説を紹介しよう（「二物衝撃の実践的メモ」鷹九七・

六月号所載）。尤も山地氏の説は俳句の手法に関連しての論で、従つて挙げられた例も俳句であるが、その句が二句一章体である限りにおいては、理論は連句の付合と同じである。「万有引力あり馬鈴薯にくぼみあり」という句は、次のような付合であろうが、

- ④ a 万有引力あり
b 馬鈴薯にくぼみあり

私は③ a・bの付味と④ a・bとの付味にはやはり質的な相違があるように思われ、① a・b、② a・bのあるいは④ a・bの俳句の付合を空撓という名で呼ぶ事にはすぐさま賛同出来ないけれども、ただ、一句の中に、あるいは一枚の絵の中に、全く無関係な二つのものを並べると、その中に一種の文学が生まれ、美が生まれる。その事まで私は否定しようとするわけではない。

だから、私は歌仙一卷の中に、このように前句と付句の間が無限にひろがっている句も一・二句まじるのもおもしろいと思う。

ねこみの通信第三十号より転載

第二十回亀戸天神藤祭り奉納正式俳諧

藤祭り奉納俳諧之連歌

結のあたたかさ

執筆を終えて

久保田庸子

次第 役割

一	席改め	宗匠	坂本孝子
二	席入り	脇宗匠	橋文子
三	配硯	副宗匠	八代 嫺
四	献花	執筆	久保田庸子
五	執筆呼び出し	知司	根津 忠史
六	文台捌き	副知司	山田 華藏
七	俳諧興行	副知司	鈴木千恵子
八	花前	座配	佐々木有子
九	玉串奉奠	座見	西田 一枝
十	花の句披露	花司	式田 恭子
十一	端作り	配硯	山本 要子
十二	吟声	同	横山 わこ
十三	文台返し	同	松島アンス
十四	作品奉納	老長	原田 千町
十五	納硯		
十六	挨拶		
十七	退席		

平成十八年四月二十六日
於 亀戸天神社

二十韻「澤東や」

坂本孝子 捌

澤東や鎮めの宮の藤祭
句碑をたどりてのどらかな刻
産まれたる仔猫の名前それぞれに
アップで決めるカメラアングル

明雅仏 秀樹 千町 嫺

行く月の影の濃淡冬の嶺
輝の指口づけをする
つきまとふ浮名を捨てて恋に生き
ポルカドットのシャンパンの泡
「飛鳥II号」かもめ舞ふ中出航し
夏帽深く島を探訪

千恵子 忠史 アンス 恭子 一枝

柏餅味噌餡多きがなつかしく
隣り近所はみんな剽軽
愛と色シングルアゲイン闊歩して
嫉みの斧を研げば漸寒
み仏の里に遍く月の射し
石をずらすと逃げる蟋蟀

要子 華藏 わこ 鐵男 雅子 有子

メンチェンでリーチ一発ツモ上がり
王監督のやまところころよ
少年の夢急ぐまじ花の影
昇る字風の筆太の龍

豊美 美奈子 孝子 執筆

二十年前、柏連句会場で明雅先生が執筆の中川哲氏に、それこそ手取り、足取り指導なさっておられたのを拝見し、お二人の真摯な様子と、厳かなお式に感じ入ったことがあります。そのお役を受けたのですから、この一年間「執筆」は頭から離れない状態で過ごしました。

始めて着ける袴姿の所作は美しければ申し分ないのでしようがとても難しいものです。真の礼では腰を上げないよう、膝に置いた左手の指はいつも揃えて、と注意したつもりですが、後でビデオを見ますと満足出来ませんでした。

大事な吟声は声量が無いので、せめて滑舌を良くしようと心掛けました。抑揚をつけ歌うよう吟ずることはとても難しかったです。青木会長から「失敗しても堂々としていなさい」と言われ気が楽になり、自分でも図々しいと思うほど失敗しても平然としていられました。諸先輩のサポート、皆様のお力添えのおかげで、得難い経験をさせて頂いたこと深く感謝しております。

芭蕉翁ツイードを着てルーブルへ 明雅
連句を始めて日の浅く目を白黒させている私に「イメージの世界に遊ぶのは楽しいですよ」とにっこりされた先生ですが、「おうおう！あんたが執筆をやったのかね」と微笑笑されていらつしやると思います。

藤祭り奉納二十韻

「神鏡」 中田あかり 捌

神鏡に藤の薫るやことしまた
春の袷の捧ぐ文台
橋の上ポートレースの噂して
子供の頃の抜道を行く

ウ 凍月の売声響く繁華街
あなたはどこか熊に似てゐる
本性を隠してゐたい初夜の床
壁の隙間に目あり耳あり
アナログのカメラシャッターぱっしゅんと
不治の病も癒す温泉

ナオ 遠海へ正覚坊を送り出し
脛毛抜くのみ瓜番の小屋
党主かへ国民人気変はるかも
漸寒によし君の心根
捨てたはずをんな捜して後の月
笑ひ茸食み取り戻す笑み
ナリ 駅前のでピエロの帽に銭の山
陳列台に細き鉛筆
揺椅子に寤寐の間の花吹雪
蜃気楼見つけ傾ける盃

連衆 本屋良子 生田日常義 式田恭子
佐々木有子

「染める紫」

上月淳子 捌

池の面を染める紫藤盛り
そぞろ歩きに亀の鳴く声
父と子の絵風作りに夢かけて
シヨートケキをお土産に買ふ
月涼し終バスがゆくニュータウン
屋外演奏そつと指ふれ
間違ひの喜劇のやうな恋の沙汰
起死回生の選挙勝利し
地価上がる程の高層ビルラッシュ
遠き山脈流る木曾節
ナオ あれが逝き彼も逝つたと日記果つ
熱爛呷る猫を相手に
ついでだと怪しげに腰抱き抱へ
裏の分からぬ浅葱裏なり
寛永寺鐘は沈みて三日の月
秋刀魚焼く煙細くたなびき
ナリ 団体の重量挙げで優勝し
孫をだしにしジェットコースター
飛花落花いっばいに詰め旅靴
哲学の道雨のあたたか

ウ 池の面を染める紫藤盛り
そぞろ歩きに亀の鳴く声
父と子の絵風作りに夢かけて
シヨートケキをお土産に買ふ
月涼し終バスがゆくニュータウン
屋外演奏そつと指ふれ
間違ひの喜劇のやうな恋の沙汰
起死回生の選挙勝利し
地価上がる程の高層ビルラッシュ
遠き山脈流る木曾節
ナオ あれが逝き彼も逝つたと日記果つ
熱爛呷る猫を相手に
ついでだと怪しげに腰抱き抱へ
裏の分からぬ浅葱裏なり
寛永寺鐘は沈みて三日の月
秋刀魚焼く煙細くたなびき
ナリ 団体の重量挙げで優勝し
孫をだしにしジェットコースター
飛花落花いっばいに詰め旅靴
哲学の道雨のあたたか

連衆 武井雅子 篠原達子 青島ゆみを

「江戸百景」

梅田利子 捌

江戸百景ながら藤の太鼓橋
心字の池にのどかなる亀
春炬燵ノートパソコン打ちもして
シュークリーム焼ける匂ひが
街騒の銀座八丁夏の月
扇子片手に待人が来る
きのふミニけふはロングで虜にし
クリムトの絵を漁る成金
豪邸も税に取られし三代目
お稲荷様は穴奥に棲み

ウ 街騒の銀座八丁夏の月
扇子片手に待人が来る
きのふミニけふはロングで虜にし
クリムトの絵を漁る成金
豪邸も税に取られし三代目
お稲荷様は穴奥に棲み
ナオ 山の出湯友と爛酒酌み交す
松風時雨胡弓嫋々
ウイニーに邪魔されさうな僕の恋
お嫁において親を背負って
月門か地場産業のみやげ店
雁の渡を珍しと見る
ナリ 鬼やんま寺院カフェの客となり
注文どほり車椅子でさ
合掌の里もやうやく花の頃
夢見心地に少女ふらふら

連衆 東郁子 副島久美子 杉山壽子
佐藤良彌

「藤の昼」

武村利子 捌

「よき貌や」

遠藤央子 捌

「藤波や」

染谷佳子 捌

藤の昼撫牛いよ艶やかに

利子

仰ぎゆくみなよき貌や藤まつり

央子

藤波や渡るに高き太鼓橋

佳子

心字の池の深みゆく春

英子

なかばは石と化して鳴く亀

千恵子

細枝はこぶ巣づくりの鳥

孝子

うらうらと雑誌のページ繰るならん

文子

炉塞ぎに調度万端ととのへて

嫺

ニューモード春の街角華やかに

豊美

香り選びて珈琲を挽く

景翠

部長会議は果てることなく

實

焙煎の香を部屋にいつぱい

博雄

夏月へ仏蘭西窓を開け放ち

了齋

D51の喘ぎ見下す冬の月

好敏

地球儀の国々照らす月涼し

要子

少年の振る白き手巾

文

石焼薯の遠き売声

實

港々に短夜の恋

孝

恋人はスクエアマンと呼ばれをり

英

すつぽりと丸き温もり抱きとり

千

うまさうにパイブくゆらす憎い奴

雄

煙草も口も吸ふはご法度

齋

リースベッドにうねる黒髪

嫺

バンジージャンプで鬱を振っ切り

之

競売会歌麿の絵をせり落す

翠

森伊蔵つい呑み過ぎて記憶なく

千

株上場目前逮捕予想外

豊

怪しいまでにうまい日本語

齋

虚実皮膜の間にある芸

好

戦艦大和押入れの中

雄

ナオ初場所の化粧回しは祖国から

英

ナオナイターに修道院も湧きかへり

同

ナオ雪が降る根雪の里にけふもまた

孝

うからやからとみ詰む氷壁

翠

悔い改めし壁に白蟻

嫺

黒川能の神おろす笛

同

動物園行動展示有卦に入る

齋

設計は偽装で胸は詰物で

千

一瞥に魂も五体も痺れける

要

抱き合ふ人を雁が見下す

同

不倫重ねて炎燃え立ち

實

忍ぶ逢瀬のホテル割勘

雄

流されし夫を想ひて月の琵琶

英

失明の人を誘ひ月を浴ぶ

央

女夫星月の光が邪魔をして

豊

捨てるもの捨て老いの爽やか

文

武蔵野の原響く爽籟

千

母なる河をのぼる銀鮭

孝

ナウ旅人よ野ざらしに美酒そそぐべし

齋

ナウ少子化の学校の裏捨案山子

同

ナウ親友の写真と秋のヴィノロッソ

同

実現近き夢の特急

英

世界遺産をめぐるハーレー

嫺

アンドウトロワバレエレッスン

要

刻惜しみ脱ぐをためらふ花衣

文

久々の取材を花の特集に

好

観覧車花より出でて花に入る

之

庭に移せし堇勾ひぬ

翠

清元さらふうららかな昼

實

遠い山脈野遊びの子等

豊

連衆 佐古英子 橘 文子 岩垂景翠

連衆 鈴木千恵子 八代 嫺 梅田 實

連衆 坂本孝子 高橋豊美 松尾博雄

鈴木了齋

豊田好敏

山本要子

「やよめき満つる」

松原弘子 捌

藤浪のささめき満つる社かな

弘子

春着の人の歩む香の中

碧

螢烏賊初物さつと酔で和へて

アンズ

DVDでホームシアター

順子

ウ 中天に細き月あり寒の入

秀樹

散茶女郎の抱く湯婆

ア

黒船の騒ぎにまぎれ道行を

樹

半農半漁暮しきびしく

順

石も樹も依代となる山ぶすま

碧

われ夜行性虎の一族

樹

ナオ 蠅座の酒酔星を日印に

ア

顔かたむけてアイス食べる子

碧

ついついのつひにのつびきならぬ仲

順

入籍をする終戦記念日

樹

月を追ひ月に追はるる明烏

碧

壺阪寺にどんぐりの降る

順

ナリ 腰痛をなだめて気功太極拳

弘

左廻りでバック車庫入れ

ア

花の雲塔三層を浮かせる

順

蝌蚪が夢見る蛙大王

碧

連衆 松本 碧 松島アンズ 和田順子

青木秀樹

「藤 房」

関口靖子 捌

水に浮く藤房の影揺れ止まず

靖子

うららうららに亀の上の亀

路子

春五彩ゆつたりと着て姿見に

美奈子

不出来なクッキー独り頬張る

靖

ウ 浅草寺喧嘩みこしに月の汗

奈

ひしと寄り添ふ遠き雷

路

縦横に裂いてつないだらブレター

華蔵

オキシドールのしみる指先

奈

民工は夜を日に継いで賃稼ぎ

同

山なだらかな遠き故郷

蔵

ナオ 毛糸編む背の児はいつか夢の中

靖

無限回転氷上のショー

路

テープにて般若心経まる暗記

奈

萩の化身か拉麺屋の娘

蔵

月に抱く肩やはらかし酔ひ深し

路

肌寒いねとシート倒して

奈

ナリ さかさかさまな籠の鸚鵡がゴチソウサン

靖

嘘かまことか老いの茫々

路

神さびる出雲の国の花に逢ふ

蔵

さん候と弥生狂言

奈

連衆 倉本路子 鈴木美奈子 山田華蔵

「藤色の風」

棚町未悠 捌

藤色の風渡りゆく水面かな

未悠

石の階満たす囀

曉巳

しゃぼん玉息を大きくととのへて

弘子

フレアスカートママのお手製

一枝

ウ 月涼し又読み直す信玄記

庸子

蝸牛の角ものぞく逢引

巳

幼さが愛しさをなほつものらせる

弘

ペーパーナイフ切れ味のよき

枝

時告げる山寺の鐘響ききて

弘

横断列車広野疾走

庸

ナオ 新任のシェリフのデビュー表デビュー表

巳

好んで食べる海豚の卵巣

庸

一刻も離れられない仲となり

弘

釣瓶落としと闇に灯を入れ

巳

吟醸の杯なみなみと月揺れる

枝

相撲甚句にわんと合ひの手

同

ナリ 安全牌ばかりの人生六十年

庸

ちよつとは舐めてみたいモルヒネ

巳

花霏々とナルドの壺に降り注ぎ

悠

春手袋を置く旅鞆

弘

連衆 島村曉巳 市野沢弘子 西田一枝

久保田庸子

「春深し」

林 鐵男 捌

春深し学びの神の齋庭かな
唱和の笛に混じる小綬鶏
お白酒珍しみつつ酌み合ひて
ペットロボット電池取替へ

鐵男
泉子
麻子
一恵

引力を試す斜塔に月凍てる

忠史

寒の相撲は軽量の勝

同

若おかみちよつとかくれて紅を差し

惠

逢引によい都心温泉

泉

数足りぬ三年保育幼稚園

史

しけつて点かぬ蚊取り線香

麻

ナオ新人の訓練にする富士登山

泉

般若心経丸暗記する

史

竹を伐る音響きくる寺の裏

麻

月の中には彼の女の顔

惠

問ひ詰める男の嘘の冷まじく

麻

齢五十で写真集出す

史

ナリ歴史ある町は名前に我を通し

惠

過保護に守る個人情報

史

花霞伊豆の島々見渡して

麻

がりを多めに菜飯弁当

執筆

連衆 青木泉水 内田麻子 山崎一恵

根津忠史

「声渡る」

横井士郎 捌

藤越しに声渡りゆき太鼓橋
艶うらゝかに撫牛の鼻
モザイクの床うつすらと黄砂して
旅番組の録画予約す

士郎
政志
千町
遊民

夏の川千々に写りし月眺め

わこ

素拾似合ふなまあしの君

民

小盃箸を枕に伏せて待つ

町

からり融通無碍の日本間

同

寅さんの休みし丘をもとほりて

志

納めの弥撒に神父渾身

こ

ナオ流木は白骨のごと冬渚

町

寡黙を守る停年の後

民

不倫ゆゑいやが上にも燃えたがり

こ

短き命捧ぐ一葉

志

吉凶のいづれぞとろり赤い月

町

鬼の捨子がぶらりおどけて

こ

ナリ露時雨こゆるべき峰眼前に

民

サブリメントをあれもこれもと

こ

雅なる笙箏築に花の舞

郎

友と連れ立ち捜す梟鳥

志

連衆 峯田政志 原田千町 内田遊民

横山わこ

亀戸天神社と奉納正式俳諧

亀戸天神社は、寛文初年（一六六一）に太宰府天神から奉遷されたものであり、その頃は東連歌所、西連歌所の二つの建物があつて將軍（家綱）も立ち寄つたという。その後享保（一七一六）の頃までは存在したが、火事で消失したらしく、西連歌所のみが明和元年（一七六四）再建された。しかし、これも大破して、寛政十二年（一八〇〇）再び建立された。この間、菅公の八百年忌、九百年忌には特別に千句連歌が興行されたという記録がある。年中行事としては、正月二日に裏白連歌神事（懐紙の表ばかり八句の連歌）、七月七日には和歌、連歌の神事、九月十三日には連歌の神事が行われ、また、毎月二十五日には月次の連歌会が催されていた。

その西連歌所は寛政二年（一七九〇）の地図によれば、瓊門（中門）の前の池に架つた三の橋の西側にちゃんと記されているが、寛政十三年（一八〇一）の絵図面には記載されていない。これはこの年御開帳があつたため、その場所が葭簀張の水茶屋になっているようである。せつかくの連歌所は壊されたのか。

因みに、猫蓑会の亀戸天神藤祭り奉納正式俳諧興行の第一回は、昭和六十三年四月二十五日（土）に行われ、宗匠東明雅先生、執筆中川哲氏により「溼東や」の巻が奉納されている。

式田さんのこと

中村 ふみ

二十三年前、明治神宮の宮司、他の神社の宮司、国学院大学の教授が中心となって、儀礼文化学会を設立した。

日本の消えかけている儀礼や文化を探してその祭や催しに参加し、よければ残すように働きかけるといふ大変なものであった。

教授の妻が友人だったため頼まれてクラスメイト三人で入会した。参加したい時だけいいと言われ地方大会という旅だけ行った。

神社でも特別扱いを受け、お神酒がおいしいということもこの時知った。

その会の旅で式田和子さんと知り合いになった。地方へ行くと彼女は地酒を実に幸せそうな顔で飲み、肴は日本茶。玉露が一番いいという彼女を、私はおしんの方がいいのにと思いつつも好意を持った。飲んでいる時の雰囲気はすばらしかった。

俳句の友人に連句は面白いからぜひ勉強してみたと言われ、私は明雅先生の偉大さを知らぬままACCの連句講座に入会した。

初めて出席した日、式田さんと出会ったのだ。人との出会いとは思議なものである。私たちは手を取り合って、どうして？どうして？と同じ言葉をくり返した。

彼女が連句界では有名とは知らず、旅のときも一言も言わなかった。

それからは、新幹線や列車の中で手取り足取りの連句の講義を受けた。短冊、歳時記持参の先生である。

物覚えの悪い私に丁寧にやさしく教えて下さり、車中の他の先生からは、またお勉強ですか、などとかかわれながら隣の席の友人を追い払って並んで座り、着くまで続けた。

この辺りで珈琲か紅茶を飲みましょうか、自転車で走ってみては如何？恋をしてみましよう。初心者の方が感心しているうちに一巻が巻き上っていた。

今、思い出してもにこにこするほど実に楽しいひとときであり、連句を続けていられるのもその頃の式田さんの特訓のおかげだ。

酒の飲みっぷりは拝見したが、盃を酌み交したことがほとんどない。差しで飲みたかった。残念である。

天下人と漫瓶

近藤守男

女流俳人黒田杏子著（白水社刊）「金子兜太養生訓」という本のなかで、兜太先生は漫瓶を愛用しており、旅鞆にも季寄せと漫瓶を必ず入れることにしている。と述べている。それを見て、司馬遼太郎著の「街道をゆく16・叡山の諸道」（一七六―一七九）に次のようなくだりがあることを思いだした。

今の叡山でも大きな行事がある時には、僧

や小僧だけでは手が足りないので臨時に所縁の人たちに「公人」になってもらう。公人は、公儀の下人という意味である。鎌倉・室町幕府の頃は、幕府の厩の雑役夫、輿をかつぐ人などもこれに入り、また町住まいの者もときどきお上の雑役に従事する者も、公人と呼ばれたらしい。室町幕府の場合、公人はときに「公人朝夕人」と併称してよばれた。朝夕人は公人のなかでも朝夕伺候する人である。江戸幕府は殿中の制度を立てるにあたって室町幕府を参考にしたが、公人という名称は継承しなかった。ただ「朝夕人」という職名だけは継承した。八万騎と称される徳川の旗本のなかで、朝夕人という世襲職をもつ家は一軒しかない。將軍が「朝夕人」と呼ぶ。尿意をもよおした、という意味である。朝夕人土田氏は駆け寄って平伏し、筒状のシピンを頭にさしあげる。かりにシピンといったが、殿中では、御装束筒と呼んでいたらしい。銅製であったとも、竹製であったともいわれる。用の大きいほうの場合、朝夕人はどういう道具でどう受けたのかは、いまとなっては窺うすべもない。

「公人朝夕人土田氏由緒所」という本があつて、それによると鎌倉將軍の尿もとつたと言ひ、領地が美濃にあつた。代々天下人の尿をとる公人なのである。家康が天下をとり慶長八年、そういう制度があることを知つて土田氏当代の孫三郎という者を召しだし、旗本にし、その職を世襲させたという。封建身分の世襲制がどういふものであるかは、この朝夕人土田氏を見ることでよくわかる。

初捌体験記

山田華蔵

朝日カルチャーセンターの「連句入門」の教室に入って三年、恒例により、捌を体験させていただくことになった。捌はまったくの初体験であるが、それよりも連句実作の場に一座した経験も極めて乏しい私にとつては、真剣に考えれば、とてつもないことである。だが、年齢とともに感受性が劣化してきているせいか、あまり深刻に思わずにふわふわと捌の席に着いてしまった。市野沢弘子先生はじめ連衆の方々は、惻隱の情を起こされたのであろう、どんどんと付けていただき、教室での時間切れとなつてロビーに移り、千恵さんが名残のウラの折立を付けたところで、花を弘子先生に、花前を有子さんに、挙句を未悠さんにお願ひしてめでたく満尾した。捌の役割をオーケストラの指揮者に例えた文章を拝見したことがあるが、その一端をちらと窺うことができたような気がした。

二十韻「うららかや」

山田華蔵捌

うららかや九谷の皿に盛るサラダ

山田華蔵

よき声弾む雛の間の客

佐々木有子

蛙の子やつと手が出て足が出て

市野沢弘子

露店の市に文庫本買ふ

矢後千恵

ウ 秘事のごと煙草銜ふる冬の月

棚町未悠

もんぺの紐をほどくせつかち

弘

AVの女優あがり嫁に行き

千

カウンセラ―もカウンセリングに

有

尖塔は曇天を指す大モスク

千

縁側に寝るみけの野良猫

悠

ナ オらずんどう鍋ぶつ切りの鯖ぶちこんで

有

百物語暗闇で聞く

悠

本当は怖くないけど縋りつき

弘

秋の扇にかくす紅痕

同

月近し成層圏のジャンボ機に

有

ぼとりぼとぼと落つる団栗

弘

ナウ坂道を登れば見ゆる母の町

千

風呂敷包み開く嬉しさ

有

花守は幹にもたれつ一人酒

弘

畦の先には笑ふ山々

悠

名著「連句入門」重版と頒布のお知らせ

連句実作者また俳諧文芸を学ぶ人々にとつて手離せない名著、

東 明雅先生の著作、中公新書「連句入門」が本年7月10日に重版されました。

1978年初版以来1995年まで8版を重ね、その後長く版行が途絶えましたが、このたび中央公論新社より重版されることになりました。定価は一部798円です。

かつて明雅先生ご指摘のわずかな誤植も正され、完全版というべきものです。

今手許に本書を置いておられない方、この際もう一冊とお考えの方のご購入をお願い致します。また連句、俳句を始められる方にもぜひお勧め下さい。

ただし部数僅少につき、一般書店では店頭に並びません。書店に注文の後出版社より書店経由でお手許に届く、という状況です。

そこで猫養会では一定部数を頒布することに致しました。価格は定価通りでお願いしますが送料は会にて負担致します。

またこの頒布は会員に限りません、お知合いの他の連句結社の方々へもご推奨下さい。お申し込みは担当の島村まで。添付の申し込み用紙をご使用頂くと便利です。

この申し込み用紙は猫養会以外の方々へのPR用としてもぜひ積極的にご配布下さい。本件についてのお問い合わせと申し込み用紙追加のご依頼は島村までお願い致します。

平成十八年三月二十五日 首尾
於 朝日カルチャーセンター

国民文化祭

やまぐち2006へのお誘い(その2)

やまぐち連句会事務局 中本七水

第21国民文化祭やまぐち「連句大会」まであと160日(5月31日現在)となりました。

事務局では着々と準備を進めております。

今回は前号に引き続き、経過のご報告を、お礼やお知らせを含めご案内申し上げます。

まず、心配しておりました「募吟」の報告です。4月20日〆切りの募吟には全国各地から644巻の作品をお寄せ頂きました。内訳は、国内一般641巻、海外2巻、中学・高校生1巻で、応募者実数1268(延べ人数2993)名という多数のご応募を頂戴致しました。事務局一同心よりお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

都道府県別の内訳はホームページに掲載しておりますので「やまぐち連句会」にアクセスし、国民文化祭「連句大会」のページをご参照くださいませ。

ご応募頂いた連句作品は例年通り、選考・審査・選者会議を経て受賞・人賞作品決定という流れですが、今年度より、文部科学省から冠される賞の「大臣奨励賞」が正式に「文部科学大臣賞」に格上げ決定されたことをお知らせ致します。

皆様のご協力のお陰で、作品集のほうも募吟科で制作できるメドがつかまりました。受賞・入選作品は、大会当日の報告集と併せて編集

制作し、一冊にまとめて、大会終了後に応募者、参加者のお手元にお届けする予定です。

次に連句大会参加のご案内です。

ご存知のように今回の連句大会は公募事業になり、予算が例年の10000〜15000万から大幅に減少(県助成150万のみ)ということになっておりますが、予算の大小にかかわらず、長所・短所ははずれにせよつきまとうものなので、準備を含め、大会全般の運営は、すべて「知恵と工夫で存分に楽しく」という姿勢での取り組みになっております。

大会会場に関しては前回もご紹介しましたように、交通のアクセスは悪いが環境は最高施設まるごと貸しきりだから、時間制限がないので久しぶりに再会した方と心ゆくまで歓談ができるが、近くにコンビニにやファミレスや居酒屋チェーン店はない。朝は「日の出」がバッチリおがめるが、大雨が降れば景観を含め何も見えない。宿泊部屋環境としてはモダンで清潔で広く快適だが、シングル部屋が当施設にはない。等々、長・短が入り交じっています。

ご宿泊に関しては、皆様のお好みにできるだけだけそえるようにホテル等も手配しておりますが、部屋割や定員等の関係ですべてのご要望を満たすことが出来ない場合もありますのでご了承のほど、お願い申し上げます。

大会への参加申込については、頂いた連句作品応募票参加予定欄に○・未定等のご記入

があった方々に、「連句大会参加申込のご案内」を送らせて頂くと共にホームページ上でも案内を掲載し、受付(随時7月31日まで)を行なっています。申込締切は7月末ですが、宿泊部屋のご要望等を含めリクエストのある方は既に5月下旬より次々と申込書が届いております。貸切バスや施設、ホテル等の割り当ての都合もあり、お早めのお申込を頂けると運営上、事務局としては大変助かり、とても嬉しく思います。

最後に当日の開催案内ですが、吟行会・交流会、開会式等・実作会と例年同様の流れです。が、今年はホール他、研修室がいくつかあるので多様に使えます。いつも通りの実作会のほか、多様な連句座も予定しています。せっかくの広い施設ですから有効活用したいと思っておりますのでこんなことをしてみたいという方がいらつしやいましたら、事務局までお届け下さい。

今年は予算上、捌きさん等への謝礼はなく、甚だ恐縮ですが全てボランティアとなりますので宜しくご理解ご了承の程、お願いいたします。先日、由宇に参りましたら、由宇のボランティアの方々現地やバスの中で岩国市や由宇を皆様にご紹介する原稿を練っておられました。由宇の方々と事務局一同でみなさまのお越しをお待ちいたしております。お誘い合わせのうえご参集下さいませ。

羅浮亭正江宗匠三周年追善

脇起り二十韻 けふのこと

村田富美捌

けふのことけふで終りぬ胡瓜揉む 正江仏

袖だたみする藍の甚平 富美

交差点白線の縞鮮やかに 文字

新装開店長き行列 和代

ウ パーテルさんクルスの光る宵の月 路子

じゃがたら薯の畑引き継ぎ 豊美

対岸の山の岩場に鳴く牡鹿 富美

想ひをつづる細書きのペン 文字

会へばすぐつきたくなる片多くば 代

打出の小槌の根付財布に 路

ナオ 真浄寺垣根をつたふ冬の蝶 豊

マスクの男月を背にして 富

ミュージカル老優鬘鑠靴鳴らす 代

伏流水で造る吟醸 文

おくびにも出さぬ浮気のDNA 豊

恋のおみくじクッキーに入れ 路

ナリ セシル島坊やも連れてハネムーン 富

親善野球の試合うららか 文

花の雲借景にする弥生町 代

雅を伝ふ木目込の雛 路

連衆 村田富美 橘 文字 長崎和代

倉本路子 高橋豊美

平成十八年六月十五日 於白山マロニエ

どう考えても

(事務局担当を終えて) 松本 碧

私はおつちよこちよいである。

普段は、そんな顔をしていないのだろう。

事務局や「猫蓑通信」編集の大事な仕事を持ち込まれてきた。

断わり切れないまま引き受けたが、やっぱ

り地が出てしまった。東明雅先生追悼(猫通

53号)の橘文字さんの文章、「天上の明雅先

生」を、「天井の明雅先生」とやってしまっ

た。心優しい文字さんは、「天井も面白いわ

よ。天井の穴から、いつも明雅先生が見てい

てくださるなんて、俳諧味があるし」と、慰

めてくださった。

それ以来、連句を巻く度に、天井を見上げ

るが、残念ながら明雅先生と目が合ったこと

はまだない。

私はおつちよこちよいだが、味にはきびし

いはずであった。だから追悼会の会場を決め

るときも食事に関しては、きつとうまく行く

だろうと思っていた。ところが、その昼食を

決めるのに、試食を失念したのだ。

会場の学士会館へは何度も打ち合わせに行

ったが、初めての日、ちょうど昼時だったの

で、一階のティールームで、サンドイッチと

お茶を取った。パンはしっかりとっていて、

味はまあまあだった。

それになによりも、このタケ高い建物ー

の一隅で、お昼を食べるのが心地よかった。

そして、こうした重厚な会館からは、美味で

格調高い幕の内弁当が出て来て当然、と思っ

てしまったのである。その軽率さが、悔やま

れる。

「あれはひどかった」「不味かったねえ」

と、後に五人中三人までに言われる羽目にな

った。

ことほどさように何度も、任期中、失態を

してしまったのである。

にもかかわらず、明雅先生の追悼会を初め、

一周忌も無事すますることができたのは、なぜ

だったのだろう。

私が生まれながらのおつちよこちよいであ

ることを、皆さんは初めから見抜いていたの

ではないか。そして、手助けしてくださった

のだ。それから、天井を通して天上から見守

ってくださった先生のお陰であったと思う。

事務局便り

◇猫養会例会

芭蕉忌正式俳諧興行及び・

明雅忌追善連句会

日 平成十八年十月十八日(水曜日)

時 十一時より十七時(受付十時半より)

場所 江東区芭蕉記念館

江東区常盤一―六一三

電話 03-3631-1448

芭蕉忌正式俳諧終了後明雅忌追善連句会

(明雅先生の発句による脇起り二十韻)

◇新会員紹介

藤原龍一郎 東京都江東区在住

足立徳子 名古屋市在住

田中和人 福井県在住

◇猫養基金にご協力有難うございました。

神楽坂連句会様 二万円

源心庵の会様 二万円

松本杏花様 五千円

久保田庸子様 一万円

基金口座 みずほ銀行 新宿新都心支店

猫養基金 普通3376045

◇猫養作品集第十六号およびバックナンバー

ご入用の方は、左記にお申し込み下さい。

☎20210012

☎042412317817

西東京市東町四―四―二八 鈴木千恵子

◇平成十八年度正式俳諧配役

宗匠 倉本路子

脇宗匠 青木秀樹

副宗匠 高橋豊美

執筆 松本 碧

知司 根津忠史

副知司 横山わか

花司 武井雅子

香元 遠藤央子

座配 松原弘子

座見 内田遊民

配硯 松島アズ

全 佐々木有子

全 西田一枝

老長 原田千町

◇猫養会十八年度当番幹事

鈴木了斎 中林あや 谷本守枝

西田一枝 横山わか

(任期は総会終了後次回総会まで)

◇同人会推薦者紹介

鈴木了斎 中林あや 谷本守枝

西田一枝 横山わか

◇平成十八年の第二十一回国民文化祭

やまぐち2006公募事業

文芸祭連句大会は

平成十八年十一月十日(金)

吟行会 交流会

平成十八年十一月十一日(土)

開会式 募吟表彰式 実作会です。

JR西日本のポスターでお馴染みの「瀬戸

の松島」山口県ふれあいパークへ是非お出

かけ下さい。

◇猫養会年会費納入口座

猫養会 みずほ銀行 新宿新都心支店

普通 3376088

季刊 『猫養通信』第六十四号

発行人 猫養会 青木秀樹

〒18210003

東京都調布市若葉町

二―二一―一六

編集人 猫養通信編集部